

## 第1回欧州ハンドメイド自転車展 (European Handmade Bicycle Expo) 参観報告

第1回欧州ハンドメイド自転車展「European Handmade Bicycle Expo」が2009年5月8日(木)～10日(日)の3日間にわたりドイツ南部シュトゥットガルトから電車で45分程の郊外の街、シュヴェービッシュ・グミュントで開催された。

### 【1<sup>st</sup> European Handmade Bicycle Expo】

主催： 2Soulsycles

会場： Congress-Centrum Stadtgarten

会期： 2009年5月8日(木)～10日(日) 10:00～18:00

8日；ビジネスデー、9、10日；一般公開

使用会場： 計1,911㎡（ホール713㎡、正面ロビー382㎡、1,2階展示場816㎡）

入場者数： 2,700名

出展社数： 69社



会場入口



正面ロビー展示

この展示会はアメリカで既に開催されているハンドメイド自転車展の成功に影響を受け、その欧州版として計画され、今年第1回目の開催となったものである。当初、主催者は最大40社程の出展者を想定して会場の一部を使用する予定だったが、実際には出展希望者が69社にも増え、メインホールと1,2階ロビーなど会場の殆どを埋め尽くすまでに展示面積は拡大された。

オフィシャルガイドによると、出展社の国別内訳の上位はドイツ37社、イタリア11社、オランダ6社及びイギリス4社である。その他欧州7カ国から参加した。今回米国からは1社であったが、今回、米国からの更なる出展希望があったため、来年は同じ会場で更に展示面積を拡大させたい意向である。



1階展示場の様子



ホール展示の様子

この展示会場は会議やコンサートなど各種催事に対応した多目的施設のため、一般的な見本市会場のように平面で見易いホールではないが、所在地は最寄駅から僅か徒歩2,3分で便利であった。シュトゥットガルトとシュヴェービッシュ・グミュント間を往復する快速電車が1時間に1本あり、多くの来場者は自動車で来場したと思われるが、公共交通の利便性もそれ程悪くない。

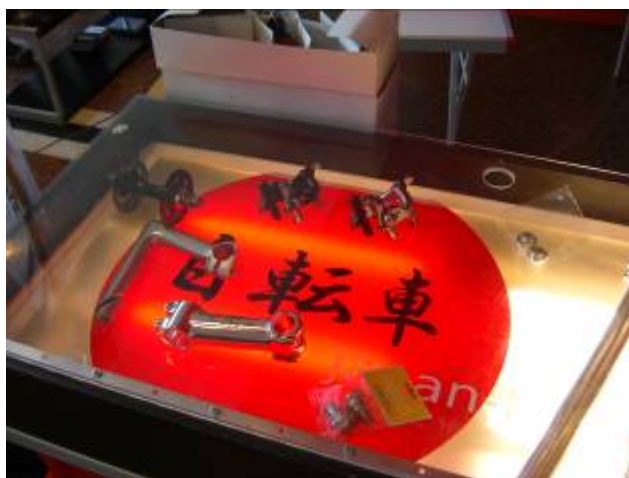
出展物の多くは展示会名のとおり、ハンドメイドのスポーツ車フレームが中心である。カーボンフレームよりもクロモリやチタン等の金属パイプフレームが目についた。MTBやロードレーサーのほか、デザインや細部に凝ったシングルギヤのスポーツ車も各所で見られた。チタンフレーム車では、米国ブランドのライトスピード、マーリン及びセブン、イタリアのデ・ローザ、またかつてはミラノ展に参加していたneviやGRIPSなど。更にコロンバス、レイノルズ及びタンゲなどパイプ(鋼管)の出品も見られた。これらの出展企業は、より付加価値の高いハンドメイド車に集約した同展を従来の自転車展より相応しいと判断したものと思われる。

また、今回、「japan-bikeparts」という日本製自転車部品をインターネット上で販売している業者が出展していたので話を聞いた。同社はニュルンベルク郊外に居を構え実店舗は持

たず、日本製のハンドル、ステム、ギヤクランク、ペダル、タイヤ、泥よけ及びベルなどを取り扱い、会場でそれらの実物を展示していた。日本ブランドはハンドメイド自転車に関心を寄せる来場者から認知度も充分あり、即売も行っていたため熱心に吟味する姿も見かけた。同社にとって同展が出展の場として最適であり、EUROBIKE や他の独ユーザーショーなどへの参加計画は一切なく、早くも来年の出展参加を表明しており、同展内容に大変満足していた。



パイプ出展（左；コロンバス、右；レイノルズ）



japan-bikeparts ブースの様子

昨年、同展の開催計画を初めて聞いた時、高付加価値の日本製自転車部品の需要がないかと考えた。来年以降、展示会規模が拡大し更なる発展が見込めるならば、日本製自転車部品の輸出促進の場として考慮に値するとも思われる。従って来年の開催動向も引き続き注意深く見守りたい。

本年の初回を成功と受け止めた主催者では、来年は2010年5月21日～23日の間、同会場にて開催予定であり、更にその翌年2011年にも既に開催の意向がある。

以上

(デュッセルドルフ事務所)